

---

# f a m i l y

空陸

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

f a m i l y

### 【Nコード】

N7364G

### 【作者名】

空陸

### 【あらすじ】

養護施設もみじ、和馬は、孤児であり、家族というものを知らなかった。だが、少なくとも、もみじの仲間とは、家族のようにみんなと接した。そしてみんなも和馬を家族のように受け入れてくれる、そんな日々がいつまでも続いてくれると信じていた・・・

## 第一話始まり

涼しい風が吹き、日は沈みかけ、すぐ横では波の音が聞こえる。

しばらく歩くと、砂浜では、小学生くらいの子供たちが、ワイワイと走り回っていた。

それを見つけ、一息つく。そして、すつと息を大きく吸い込み。

「おい、夕飯ができたぞー」

と、和馬<sup>かずま</sup>は、大声で叫ぶ。砂浜で走り回っていた子供達は、笑顔で和馬のところ

まで走って近寄った。

「ねえ和馬兄ちゃん今日の夕飯は何？」

質問をしてきたのは信人<sup>のぶひと</sup>という少年。元気な小学5年生だ。悲しい事に、中学生

の俺が、持久走で負けた思い出がある。本当に元気な小学生だ。

「ごめんな信人、聞いてない」

和馬は、苦笑いし、信人に謝った。信人はエーと、言い、がつくりと下を向く。

「まあ、帰ったらわかることだし、別にいいだろ」

和馬は、信人の肩に、ポン、と手を置く。信人は、うん、と頷いた。

「そうそう、和馬お兄ちゃん、今日学校でね、すっごく面白いことがあったんだよ」

次に話しかけてきたのは凜りんという少女こちらもすごく明るく元気な小学4年生であ

る。自己中なのが痛いところだが……。

「へー、でも今はもみじに帰ろう。咲さきさんが待ってる」

もみじというのは養護施設の名称で、咲さんというのは、もみじの職員で、俺たちの母親の

ようなものだろうか。

ここまで言ってしまうばわかると思うが、俺達は孤児であり、血の繋がりはまったくない。

しかし、家族のように、みんなと接しているつもりだ。たぶん、みんなも……。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7364g/>

---

f a m i l y

2010年10月19日15時11分発行